

# 科学研究費補助金の拡充と改革

研究者の自由な発想に基づく学術研究を幅広く推進

平成19年度概算要求額:210,600百万円  
(平成18年度予算額) :189,500百万円

- 科学技術基本計画 (閣議決定)  
“競争的資金の拡充”  
“間接経費30%の早期実現”
- 経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006 (閣議決定)  
“競争的資金の拡充”
- 経済成長戦略大綱 (経済財政諮問会議)  
“若手研究者への支援”
- 平成19年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針  
“若手研究者支援、間接経費の充実”  
“イノベーションの源の潤沢化”  
(総合科学技術会議)

- 研究費の有効活用
  - ・補助金の不正使用の防止
  - ・研究活動の不正行為の防止
  - ・研究費配分における無駄の排除
- 科研費の弾力的使用

科  
研  
費  
の  
拡  
充  
と  
改  
革

- ◎ 間接経費の拡充
- ◎ 若手研究者育成・支援の充実
  - ・若手研究 (S) の新設 等
- ◎ 審査・評価体制の充実
- ◎ 独創的・先駆的な研究の重点的推進
- ◎ 日本学術振興会への更なる移管

- ◎ 不正使用等への対応
  - ・機関管理の体制強化
  - ・ルールの徹底 等
- ◎ 電子システム化の推進
- ◎ 年度間繰越の活用促進

# 科学技術振興調整費

平成19年度概算要求額 : 47,400百万円  
(平成18年度予算額) : 39,800百万円

## ○新規公募プログラム (7,600百万円)

### 世界トップレベル研究拠点の構築

各分野において高いレベルに達している研究拠点に対して資金を集中投入することにより、世界トップレベルの研究拠点の形成を加速

## ○継続公募プログラム (39,800百万円)

### 平成18年度創設のプログラム

#### 若手研究者の自立的な研究環境整備促進

テニユア・トラック制に基づき、若手研究者に競争的環境の中で自立性と活躍の機会を与える仕組みを導入

#### 女性研究者支援モデル育成

女性研究者が研究と出産・育児等を両立し、研究活動を継続するための支援を行う仕組みを導入

#### 先端融合領域イノベーション創出拠点の形成

先端的融合領域において、産学官の協働による、将来的な実用化を見据えた基礎的段階からの研究開発を行う拠点を形成

#### 地域再生人材創出拠点の形成

将来的な地域産業の活性化や地域の社会ニーズの解決に向けた、地域再生のための人材を創出する拠点を形成

#### アジア科学技術協力の戦略的推進

アジア諸国とのオープンで対等なパートナーシップを主導し、地域共通課題等の解決を図るため、国際共同研究の実施を支援

#### 重要政策課題への機動的対応の推進

総合科学技術会議のイニシアティブにより、機動的に対応すべき研究開発、政策ニーズに基づく調査研究等を実施

### 平成17年度以前創設のプログラム

#### 科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進

科学技術連携施策群において補完的に実施すべき研究開発課題について内容・達成目標等具体的に設定して推進

#### 重要課題解決型研究等の推進

国家的・社会的に重要な政策課題であって、単独の府省では対処が困難であり、政府として速やかに取り組むべき課題について推進

※これらのプログラムについては、システム改革の推進を重視し、新規募集の適否も含めプログラム設計の見直しを行う。

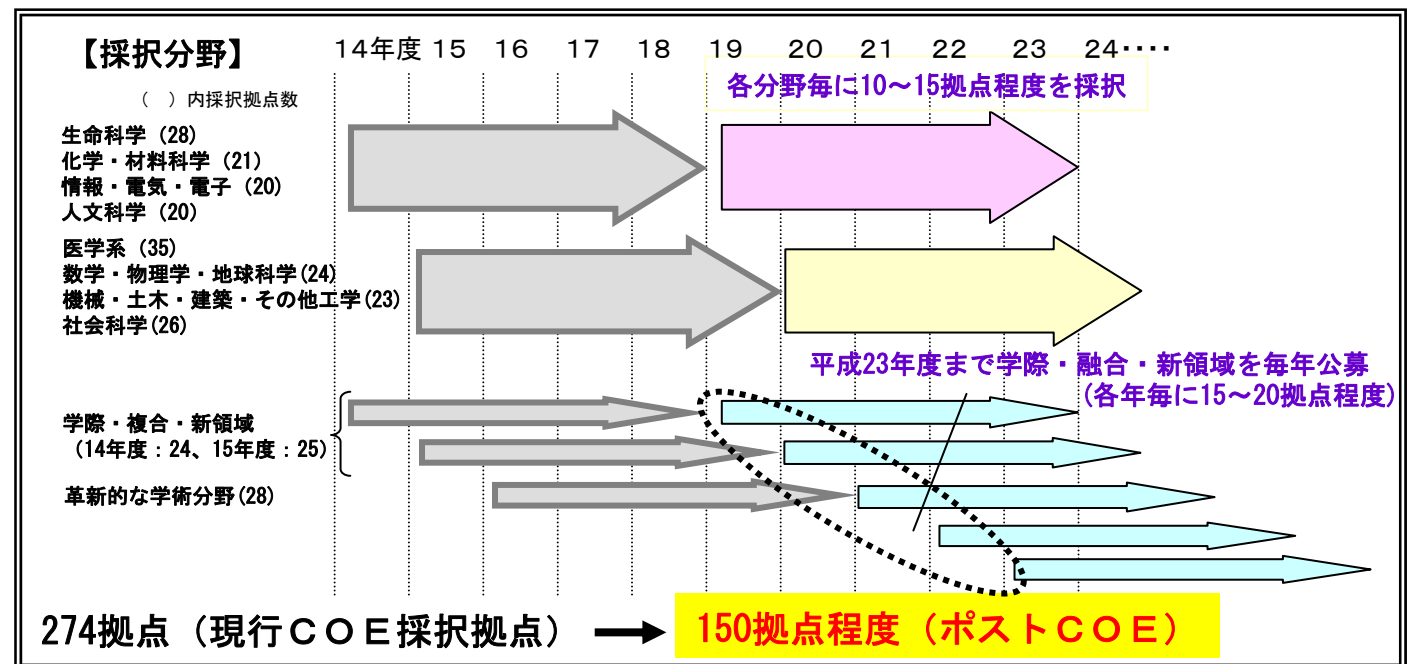
# グローバルCOEプログラム(ポスト「21世紀COEプログラム」)

(新規)  
平成19年度概算要求 23,087百万円

- ★「21世紀COEプログラム」の成果(大学改革・教育・研究)を踏まえ、  
これまでの基本的な考え方を継承しつつ、さらに支援を充実し、飛躍的な発展を目指す
- ★中教審答申(「我が国の高等教育の将来像」(平成17年1月)、「新時代の大学院教育」(平成17年9月))を踏まえた大学改革を推進
- ★卓越した国際的教育研究拠点をより重点的に支援  
274拠点(現行COE採択拠点数) ⇒ 150拠点程度(ポストCOE)      支援規模: 5千万~5億円/年
- ★新たな学問的ニーズに対応するため、学際・融合・新領域については、毎年公募
- ★全分野で新たに公募(現行COEの卓越した拠点は継続させつつ、新規性・将来性も考慮した多元的視点により審査)
- ★若手研究者や博士課程の学生が独立して研究に専念できる環境の整備や経済的支援の強化、国内外の優れた研究機関との連携や海外の優れた研究者の招聘促進
- ★国際競争力を評価するための審査・評価体制の強化(審査・評価に外国人研究者等を積極的に登用)

## 《審査の視点》

- ①教育研究活動実績や将来性
- ②拠点形成計画の内容(特に国際的であるという点を重視、**特色に応じたオンリーワンの教育研究活動**を世界に発信するなどの観点にも配慮)
- ③大学としての教育研究推進方策
- ④大学としての若手研究者(特に助教)支援体制



# 研究費の適正な執行に係る指導等の抜本的強化

平成19年度概算要求額 : 32百万円  
(新規)

## 1. 背景及び必要性

- 公的研究費の不正な使用は、公金の浪費等の問題にとどまらず、研究活動への公的支援に対する国民の支持の基盤をなす信頼を損ない、ひいては我が国の科学技術振興全体に悪影響を及ぼす大きな問題。
- 大学等の研究機関で管理されている研究費の不正使用を防止するには、機関における研究費の管理・監査体制の整備・充実が必要。
- そのため、文部科学省において、研究機関における管理・監査体制の整備状況を確認し、不備があれば改善に向けた指導を実施。

## 2. 主な業務内容

### ①競争的資金等の執行指導のための研修会の開催及び実地調査の実施

全国の研究機関において、競争的資金の適正な執行の指導のための研修会を開催。また、研究機関における研究費の管理・監査体制構築のための指導や、実施状況調査(実地検査を含む)及び改善措置等への事後対応。

### ②海外事例調査

多額の競争的資金等を運営する先進国の事例について現地調査を実施。

### ③競争的資金等の適正な執行指導のためのマニュアルの作成

競争的資金等の適正な執行を促進するため、ルールを明確にしたマニュアル等を作成。

### ④ホームページの作成及び更新

競争的資金等の適正な執行に係るルールや、不正の事例分析及び対策等をホームページに掲載。

### ⑤国内の動向調査

競争的資金等の執行について、国内研究機関の動向等の調査。

